アフリカと食糧援助

食糧不足のアフリカに対して食糧を援助することは急務非か。ある人は食糧が不足しているのだから、食糧を送れば済むことだと吹聴する。またある人は食糧援助はもう要らない、問題は食糧自給の確立であると主張する。アフリカと食糧援助とめぐる貧困の援助と

アフリカの危機と食糧援助

一九八三年以降、国連はアフリカの危機に関心を寄せ、食糧問題に対応させてきた。一九八四年のタスクリ・フォースの結成から八六年一〇月のOECO（アフリカの経済的統合危機に対する活動）およびFAO（食糧

農業機関）とWFP（世界食糧計画）のアフリカ向け食糧援助実施の

経緯は以下の通りである。

一九八三年四月、FAO/WFPタスクリ・フォースがアフリカの

食糧緊急事態に対処するために設置された。これがその後のアフリカ政府に食糧援助活動の出発点であった。八三年一〇月、タスクリ・フォースは食糧援助活動の出発点であった。八三年一〇月、タスクリ・フォース

一九八四年一月九日、FAOは八四年のアフリカ食糧事情の見

通しを発表した。食糧不足国は二カ国（アンゴラ、ベナン、ボツワナ、カボベルデ、中アフリカ、チャド、エチュディア、ガンビア、
アフリカでは、食糧危機が深刻だ。その原因は気候変動による収穫量の減少である。特に、ヨーロッパや北米の主要な穀物生産地では、乾燥や豪雨の影響で、穀物の生産が大幅に落ち込んでいる。これにより、世界中の食料価格が上昇し、貧困層の食料自給がさらに困難になっている。政府は緊急の支援策を導入し、食糧の安定供給を図ろうとしている。
アフリカの危機的経済情勢に関する決議」と付属文書「宣言」を採択した。

一九五五年一月、OEOA（Office for Emergency Operations in
Africa）が設立された。八五二〇〇三〇〇月〇〇日、アフリカ昭
日の緊急要請「一九五五年」と打衛出した。（12）以
緊急要請報告書はアフリカ緊急要請報告書を編める
はアフリカ国民の必要要請が課題であると分析した。八
五六年六月、FAO理事会はニーカ国の食糧需要に対応は
りわけ九省で食糧援助の輸送問題が課題であると分析した。

通を含むが九五一〇〇円、農業牧畜インプルがニーカドル、
保健活動が〇九〇〇円、教育活動が〇五〇〇円、給水が〇
トン、通商輸出量がニ〇〇〇〇万トン、経済社会理事会への事務総長報
告は食糧援助の要請量と配給量が多くなり、飢餓者を減少するか
う、むしろ問題は輸送である。と指摘した。（15）

一九五五年一月のOEOA「スティタス・レポート」によれば、食
糧不足国はニーカ国であり、緊急要請国は五ニーカ国（ソ
ーニ、ボツワン、ブルキナ・ファソ、ブルンジ、カボベルデ、チ
ゴラ、ポリノ）をも含めた。
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>1965, OEOA, pp. 84, 85</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6590</td>
<td>30 42 69 72 82 125 155 205 241 251 290 335 425 500 1400 1500</td>
</tr>
<tr>
<td>5083</td>
<td>15 26 49 59 79 122 161 180 191 213 231 321 302 348 810 1300 1070</td>
</tr>
<tr>
<td>3411</td>
<td>15 26 49 59 79 122 161 180 191 213 231 321 302 348 810 1300 700</td>
</tr>
<tr>
<td>52</td>
<td>50 62 64 82 98 105 45 49 55 41 42 41 32 87 130 58 47</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第1図 救援活動の急務と配布基 1986年

(単位: 1000人)

□ 急務
△ 配布基
アフリカと食糧援助

一九三〇年代に、アフリカの食品需要は急速に増加し、特に小麦の需要が顕著であった。その結果、一九三一年に政府が発した「アフリカ食品問題に関する特別調査委員会」の報告によると、アフリカの小麦需要は一九三〇年代の約二千五百万トンであった。

一九三〇年代の終わりまでに、アフリカの小麦需要は一九三七年の約三千四百万トンまで増加した。この増加は、特にアフリカの農業の発展と、輸入による食糧の増加によるものであった。

しかし、この時期の食糧供給は未だに問題を残しており、特にアフリカの小規模農民は食糧不足に直面していた。このため、国際的な食糧援助が必要となった。

国際的な食糧援助

一九三〇年代の終わりに、国際的な食糧援助が開始された。この援助は、特に国連の世界保健機関（WHO）と国際食糧機関（FAO）が中心となり、アフリカの小規模農民を支援する目的で行われた。

一九三〇年代の終わりまでに、FAOはアフリカの食糧問題を調査し、公表した報告書の中で、アフリカの食糧問題は深刻であると指摘した。この報告書を受け、国際的な食糧援助が開始され、アフリカの食糧問題は改善された。

一九三〇年代の終わりまでに、FAOはアフリカの食糧問題を調査し、公表した報告書の中で、アフリカの食糧問題は深刻であると指摘した。この報告書を受け、国際的な食糧援助が開始され、アフリカの食糧問題は改善された。

一九三〇年代の終わりまでに、FAOはアフリカの食糧問題を調査し、公表した報告書の中で、アフリカの食糧問題は深刻であると指摘した。この報告書を受け、国際的な食糧援助が開始され、アフリカの食糧問題は改善された。
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>%</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>100.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>97.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>94.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>91.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>88.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>85.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>82.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>79.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>76.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>73.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>70.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>67.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>64.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>61.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>58.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>55.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>52.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>49.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>46.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>43.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>40.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>34.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>31.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>28.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>25.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>22.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>13.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

Note: The table represents the percentage of food security in various years from 1979 to 1988.
アフリカと食糧援助

いく低所得アフリカ諸国では七二三三年の二万トンから八三一八
年の三万トンへと七倍も増加した。次いで粗糖は七二七三
年の四万トンから八三一四年の八万トンへと三倍も増加し
た。米は七二三三年の一・六万トンから八三一四年の四万
トンに急増した。

八四二八月一日付、テイスト、レポートによれば、八三一八
年の食糧不足の四・二カ国の食糧事情は食糧輸入必要量四万
トン、援助必要量二万トン、配給量一〇万トンであった。

八四三〇日付、テイスト、レポートによれば、八四五〇年
の食糧不足の三・〇カ国の食糧事情は食糧輸入必要量四万
トン、援助必要量二万トン、配給量一〇万トンであった。

八六二八月一日付、テイスト、レポートによれば、八六四〇年
の食糧不足の二・〇カ国の食糧事情は食糧輸入必要量四万
トン、援助必要量二万トン、配給量一〇万トンであった。

一九八九・七七年、WPが把握したアフリカ向け食糧援助は九
万五千トンであった（以下、第二表参照）。援助供与国はアメリカ、
WFP、EEC、カナダ、日本、オーストラリア、イタリア、オラン
ダ、西ドイツ、フランス、イギリス、C F G B（カナダ食糧輸
物）の順であった。セネガルとケニアの食糧援助の必要性については問
題が残るので、八〇年代の主要援助必要国はエチオピア、ソ
マリア、モザンビーク、ケニア、ソマリア、モロッコ、マリ、ジ
ュネーブル、ザンビア、モザンビークと予定されている。エチオ
ピア、カナダ、オーストラリア、日本で義務ある。八〇年代の主要
援助供与国はアメリカ、EEC、カナダ、日本、オーストラリアである。
第3表 援助食糧の内訳 1984—1987年
(単位：100トン）

<table>
<thead>
<tr>
<th>受入国</th>
<th>貨類</th>
<th>小麦</th>
<th>メイズ</th>
<th>ソルガム</th>
<th>米</th>
<th>C.S.ミルク</th>
<th>その他</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>エチオピア</td>
<td>20206</td>
<td>507</td>
<td>1444</td>
<td>134</td>
<td>608</td>
<td>451</td>
<td>23352</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>スーダン</td>
<td>9636</td>
<td>224</td>
<td>5792</td>
<td>511</td>
<td>50</td>
<td>198</td>
<td>16411</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>モザンビーク</td>
<td>3865</td>
<td>5962</td>
<td>0</td>
<td>2179</td>
<td>2</td>
<td>346</td>
<td>12353</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ケニア</td>
<td>3734</td>
<td>1513</td>
<td>0</td>
<td>161</td>
<td>46</td>
<td>0</td>
<td>5453</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ソマリア</td>
<td>2138</td>
<td>1256</td>
<td>368</td>
<td>1159</td>
<td>247</td>
<td>15</td>
<td>5184</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>モロッコ</td>
<td>3254</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>180</td>
<td>0</td>
<td>202</td>
<td>3636</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>マリ</td>
<td>162</td>
<td>1972</td>
<td>203</td>
<td>949</td>
<td>196</td>
<td>50</td>
<td>3533</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ニジェール</td>
<td>737</td>
<td>736</td>
<td>1379</td>
<td>116</td>
<td>157</td>
<td>1</td>
<td>3126</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ザンビア</td>
<td>1597</td>
<td>983</td>
<td>2</td>
<td>105</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>2689</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>モーリタニア</td>
<td>1881</td>
<td>219</td>
<td>215</td>
<td>265</td>
<td>5</td>
<td>9</td>
<td>2595</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ジンバブエ</td>
<td>1443</td>
<td>820</td>
<td>0</td>
<td>59</td>
<td>33</td>
<td>0</td>
<td>2356</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>チャド</td>
<td>795</td>
<td>312</td>
<td>401</td>
<td>563</td>
<td>174</td>
<td>0</td>
<td>2245</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>タンザニア</td>
<td>973</td>
<td>435</td>
<td>130</td>
<td>566</td>
<td>0</td>
<td>100</td>
<td>2203</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>セネガル</td>
<td>560</td>
<td>176</td>
<td>428</td>
<td>515</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>1688</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>アンゴラ</td>
<td>305</td>
<td>610</td>
<td>79</td>
<td>513</td>
<td>96</td>
<td>29</td>
<td>1631</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ブルキナファソ</td>
<td>14</td>
<td>818</td>
<td>306</td>
<td>326</td>
<td>161</td>
<td>0</td>
<td>1624</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ボリビア</td>
<td>0</td>
<td>482</td>
<td>342</td>
<td>0</td>
<td>562</td>
<td>0</td>
<td>1387</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>レット</td>
<td>555</td>
<td>447</td>
<td>0</td>
<td>23</td>
<td>72</td>
<td>0</td>
<td>1097</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>カンボジア</td>
<td>362</td>
<td>381</td>
<td>0</td>
<td>198</td>
<td>7</td>
<td>35</td>
<td>983</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ルワンダ</td>
<td>163</td>
<td>158</td>
<td>75</td>
<td>139</td>
<td>7</td>
<td>4</td>
<td>547</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ブルンジ</td>
<td>159</td>
<td>38</td>
<td>0</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>199</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>52539</td>
<td>18049</td>
<td>11165</td>
<td>8664</td>
<td>2432</td>
<td>1445</td>
<td>94293</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>％</td>
<td>55.7</td>
<td>19.1</td>
<td>11.8</td>
<td>9.2</td>
<td>2.6</td>
<td>1.6</td>
<td>100.0</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

1984年
| 8193 | 3094 | 559 | 884 | 238 | 46 | 13013 |

1985年
| 26047 | 8014 | 8768 | 4340 | 1263 | 1010 | 49443 |

1986年
| 15521 | 5065 | 1694 | 2879 | 768 | 387 | 26315 |

1987年
| 2777 | 1877 | 145 | 561 | 161 | 2 | 5522 |

Compiled from Status Report, op. cit. (C.S.ミルク=Corn Soya Milk)
（2）緊急援助あるいは救援援助。食糧援助の三・四割はこれである。

（3）緊急援助あるいは救援援助。食糧援助の三・四割はこれである。国連やNGOが食糧援助（emergency food aid）と呼ばれる。市場売却援助（market sale aid）または産業援助（production support aid）と呼ばれるが、食糧生産拡大のための各種のプロジェクトを通じて利用される。農業の危機が叫ばれる以前、つまり八二年までの食糧援助が市場売却援助の七割、救援援助が二割であった。八三年からのアフリカ緊急援助活動では救援援助が少なくなった。八四八五年の援助が二割である。八五八六年は救援援助五〇％、市場売却援助三六％、プロジェクト援助四五％であった。八六八七年は市場売却援助三九％、プロジェクト援助一八％であつた。
アフリカと食糧援助

サハラ以南アフリカ諸国では、食糧輸入必要量における援助の割合が高くなってきた。一九六三年、食糧輸入は一五〇万トンで、食糧援助が一〇万トンであった。七六年、食糧輸入は二〇〇万トン、食糧援助が二〇万トンとなった。八一年になると食糧輸入は一四〇万トン、食糧援助が一〇万トンであった。八三年の食糧輸入額は二五〇万トン、食糧援助額は二〇万トンであった。八五年の食糧援助は一〇万トンであったが、そのうち一九七万トンがLDC向けであった。八六年の食糧援助は二〇万トンであったが、そのうち二三〇万トンがLDC向けであった。サハラ以南アフリカ諸国はLDCが圧倒的に多い。

自給率の低い国はカポベルデ（七％）、モーリタニア（三三％）、ソマリア（三三％）、ギニア・ビサウ（三三％）である。食糧援助依存率の高い国はカポベルデ（五柒％）、モーリタニア（三三％）、ソマリア（三三％）である。

一九七〇年代後半から現在に至るまで、アフリカの食糧生産は六〇万トン、食糧輸入は七〇万トン、食糧援助は四〇万トンで、自給率は二三％、食糧援助依存率は四〇％である。八五年の食糧援助の急増によって、食糧援助依存率の高い国はカポベルデ（五柒％）、モーリタニア（三三％）、ソマリア（三三％）、ギニア・ビサウ（三三％）である。食糧援助依存率は四〇％である。スウェーデンの食糧援助依存率は三〇％である。自給率を比較すれば、エチオピアの自給率は九〇％で、モーリタニア（三三％）、ソマリア（三三％）の自給率は一〇％を下回っていた。カプチーノでも事態は同様であった。
十八年、アメリカの食糧生産は三億二千九百万トン、輸出は二千九百万トン、輸入は一億八千九百万トン。輸出等は一億二千九百万トン、自給率は九九・九％であった。オーストラリアの輸出等は一億八千九百万トン、自給率は九九・九％であった。フランスの輸出等は一億二千九百万トン、自給率は九九・九％であった。カナダの輸出等は一億九千九百万吨、自給率は九九・九％であった。

因に、日本の食糧生産は一億八千万トン、輸入は二千四百八十万トン、輸出等は一億一千万トン、自給率は七三・七％であった。食糧自給率の改善は、エネルギー、農業、貿易の構造改革を含む多国間対話と、食糧問題の解決のために、世界食糧ポリシーの推進と、世界食糧ファンデーション（WFP）などの国際組織の支援に大きく依存している。食糧問題の解決には、国際的な協力と、各自の努力が不可欠である。

Recent Resolutions of R.G.N.-

and Programme Coordination. Report of the Secretary-General on the Security Council's

Resolution and Reconciliation of the Situation in Africa. Report of the Peace

UNRO. Situation in Africa—An Overview of Emep-


Special Memorandum on Africa's Economic and Social De-

situation in Food and Aid, and the Background of the Emergency

Resolution, An Update on the Position of the Secretary-General

The Special Session of the Security Council in Africa. Report

UN Chronicle, Vol. 29, No. 3, March 1994, p. 11


Critical Situation of Africa and Agriculture in Africa. 19

(1) Critical Situation of Food and Agriculture in Africa, 19

...
members of this movement and they constitute more than half the total membership.

That is to say, the main actors of Non-Aligned Movement are African States, and a number of its essential objectives are also African problems, such as apartheid, Namibia, external debt, desertification and drought, starvation and malnutrition, deforestation, refugees and displaced people. Thus, Africa is closely connected with the Non-Aligned Movement.

From these viewpoints, this article is an attempt to describe international relations in Africa through the Non-Aligned Movement.

Africa and Food Aid

KAWABATA Masahisa

Food aid is generally the transfer from donor countries to recipient countries of food commodities on a grant basis or on highly concessional terms. Commodities shipped as food aid are divided into two main categories; cereals including wheat, rice and coarse grains, and non-cereals including dried skim milk, dairy products, vegetable oil and butter oil. Food aid represents a significant part of the total external assistance to developing countries, especially to African countries. FAO and WFP have been continuously monitoring food aid flows and development.

Toward the end of 1983, as the drought-induced crisis in Africa intensified, secretary-General of the UN initiated a campaign to alert the international community of the imminent perils confronting the African continent. The various organizations of the UN system strengthened their emergency relief operations. The office of Emergency Operations in Africa (OEOA) was established to mobilize and co-ordinate international assistance to Africa in January 1985. The UN considered the critical social economic situation in Africa and coped with emergencies including food aid. Since 1986 food aid was overdelivered.

Food aid has aroused criticism. Food aid is criticized, firstly because it creates a budgetary dependence on food aid by generating local currency resources through open market sale, secondly it reduces incentives to agricultural producers. because of lower prices of aided food, thirdly it makes a custom of consumption of food which is rarely produced in Africa, fourthly it breaks traditional defence mechanism against drought and famine, fifthly it creates sometimes new gaps between the starving and the survivors, sixthly it is used strategically by the US administration.

In conclusion, African countries must not depend on food aid, which often comes with many economic and political strings attached to it. African countries must now regard priority and self-reliance in food production and supply, that is, self-sufficiency in food as one of their central objectives.